

令和5年度 中2「高志学」伝統工芸士研修

- 1 期 日 令和5年5月18日(木)
- 2 目 的 (1) 産地に出向き伝統工芸士の話を聞いたり、名工の技を見学・模擬体験したりすることにより、ふるさと福井の文化・産業について理解を深める。
(2) 共同学習を通して同学年生徒同士の親睦を深め、相互理解を図る。
- 3 場 所 [Aコース] (AM)うるしの里会館 (PM)越前陶芸村
[Bコース] (AM)越前和紙の里 (PM)越前陶芸村
[Cコース] (AM)タケフナイフビレッジ (PM)越前陶芸村
- 4 参加生徒 87名
- 5 報 告

◆越前和紙の里

卯立の工芸館では、伝統工芸士の方から和紙作りのプロセスを説明していただき、また和紙作りにかける思いやこれからの発展の方向性など、生徒たち自身のテーマに関する質問にも次々と答えていただきました。紙の文化博物館では、和紙の生産の始まった歴史やこれまでに制作されていた現代の和紙製品を見ることができました。越前和紙に漫画の原画を描いた企画展示では、千年を超えて和紙や漫画の文化を残そうという試みに生徒たちは興味津々でした。



◆うるしの里

うるしの里会館では、漆器産業の歴史や木地から加飾までの製造工程について、実物やパネルを見ながら説明を聞いたり、伝統工芸士の方に直接話を聞いたりしました。それぞれの生徒が考えたテーマをもとに、積極的に質問をすることができました。その中で、時代に合わせた製品の工夫や、長く使ってもらうための取り組みなどを知ることができました。直接手に取りながら話を聞くことで、その特徴や良さなどをより一層感じられたようでした。



◆タケフナイフビレッジ

打刃物について説明を受けた後、工場を見学させていただきました。生徒たちは、職人の方々の姿や現場での熱気を実際に感じる事ができました。また、ナイフビレッジでは小さな会社が集まって、互いに交流を深めながら作業を行っていることを知り、「みんなで人を育てる」ということに温かさを感じました。伝統工芸士の方からは、仕事のやりがいや未来へ継承していくことへの想いを聞くこともでき、生徒たちもそれぞれの問いについて積極的に質問していました。



◆越前陶芸村

越前陶芸村では、地元の粘土を使って陶芸品を制作する手ひねり体験をしました。湯飲みやコップ、菓子皿といった陶器、恐竜やウサギなどの置物など、陶芸品の作り方の説明を受けた後、それぞれが思い思いの作品を作りました。焼くとサイズダウンするとの説明があり、どのぐらいの大きさで作るとよいのか戸惑う姿が見られましたが、生徒たちはできあがりの色や形を想像しながら熱心に手を動かしていました。地元の伝統工芸の制作過程を自ら体験することで、より一層理解を深めることができました。

